

新型コロナウイルス感染症では生活上の制約、特に外出自粛などが推奨された。その結果として医療においても患者さんのさまざまな形での通院、治療自粛などが起こった。

茨城県保険医協会で「新型コロナウイルスの影響に伴う外来患者減少理由・患者の症状変化に関する緊急調査」を行ったところ、新型コロナウイルスの影響による外来患者の受診減少が9割以上の医療機関で見られて

いた。医科診療所では、『感染リスクを恐れ患者自ら受診を手控えたこと』を一番大きな患者減少理由としてあげている。2番目には、『長期処方によって受診間隔をのばしたこと』があげられた。歯科診療所でも医科診療所同様、『感染リスクを恐れ患者自ら受診を手控えたこと』が

一番大きな患者減少理由としてあげられ、2番目には『感染対策のための外来受け入れ制限』があげられている。また、新型コロナウイルスの影響に伴う受診控え等により、全体では42.2%の医療機関で、患者の症状悪化が確認されていた。糖尿病では血糖コントロール不良や合併症の重症化、高血圧症では血圧コントロール不良などで、症状悪化の多くは『患者による任意の受診中断・服薬の中止』が原因であると考えられている。

論壇 ②

新型コロナウイルス感染症流行時の 通院医療継続の必要性

茨城県保険医協会理事 山崎 勝也

当院は約9割が糖尿病の患者さんだが、4月には約1割が通常を受診ではなく、新型コロナウイルス感染を危惧しての電話再診であった。その後は徐々に電話再診は減っているが、中には電話再診を続けて希望される場合もあった。検査をせずに薬を続けていただくことは、通院治療を中断されてしまうよりはいいが、コントロール状況がわからずに、悪くなっている場合もあり、検査をせずに薬を続けるだけでは安定した診療は難しい。テレワーク

が行われ、家で仕事をしているとついつい間食してしまい、ステイホームで家から出ないと運動不足になるなど、新型コロナ感染予防対策での弊害も見られる。ステイホームでも家周辺の人通りが少ない所を歩くことは問題ないし、家の中で運動したり、意識的に体を動かすよう心掛けるこ

とは重要だ。そして、定期的な受診、検査をして良好なコントロールを維持していくことを患者さんに理解して頂き、通常に通院を続けてほしい。

一時落ち着いたかに見えた感染者数も7月に入り、増加してきており、今後4月頃と同様の受診控えが危惧される。医療機関は各々新型コロナ感染症対策を行っており、それを患者さん達に御理解頂き、通院自粛をされないよう啓蒙していく必要がある。